

校長室だより



真岡東中 校長室だより

No. 28

2017/12/25/Mon

2学期終業式 クリスマス

クリスマスの日が決まる 386年

物理学者ニュートン誕生 1642年

日本初のクリスマスパーティ 1874年

「おやげ!たいやきくん」発売1975年

チームひがし…生徒・教職員・家庭へ向けての校長通信

「君たちはどう生きるか」…生きるべき道を考える冬休みに!

2学期…君たちは大きく成長し感動できた!

有意義な冬休み・よい新年をお迎えください!

本日は第2学期終業式です。校長式辞では、生徒の成長の確認と新年へ向けての期待について、お話します。主な内容を紹介いたします。

冬休みは、年の終わり大晦日・年の始まり元旦があります。よく「**一年の計は元旦にあり**」=年間の計画は年の初めの元旦に立てるべき。物事にとりかかる時は始めにしっかりとした計画をもって当たれ。」と言います。それをするには、成果と課題・反省を明らかにする必要がありますので、この2学期を振り返ってみましょう。

駅伝フェスで、学年・学級をこえて応援する姿、感謝の気持ちで走る姿に、私は「**速い・遅いは関係ない! 一生懸命走るから感動する! 君たちは大きく成長した**」と話しました。君たちは自分たちで創り上げる楽しさを味わい、感動する体験ができたのです。

2学期の成長

1年生…先輩に叱咤激励され、先輩を真似ながらも自ら行動しようと努め、様々な行事で積極的に活動してきました。運動会で先輩に見てもらったソーラン節。一緒に練習試合に取り組んだ合唱。大会やコンクールで活躍した部活。テストが続いても、やらされるのではなく自分から勉強に取り組もうとした頑張り。本当に中学生らしくなった1年生でした。

2年生…学校行事や部活動等で3年生を支え、リーダーシップが取れるようになりました。新人大会やコンクールでの活躍。感動の名場面を数多く演出した運動会。会場をうならせた美しい合唱。多くの事業所から高い評価を得て絶賛されたマイチャレンジ体験活動。進路を意識しはじめ、本気で取り組むようになった勉強。自信とたくましさを感じました。

3年生…最後の運動会やひがし野祭を最高のものにしようと思う存分に力を発揮しました。最上級生としてのプライドと心意気を十分に見せた運動会。3年生の力を見せつけ、聴衆を感動させた合唱。周りの人への感謝の気持ちを忘れずに語ったクロージングセレモニーでのスピーチ。勉強が忙しい時期にもかかわらず、懸命に感謝の走りを披露した駅伝フェス。本気になってきた受験勉強。やる気と頼もしさを感じた3年生でした。

始業式で話した「UHE=行事を通して日常的にはU=うんと勉強・H=人には優しく・E=いい中学生になろう」を実践できたと思います。ここに君たちの大きな成長があり、これらのことが学校を支えている!それが次の成長のエネルギーとなります。

充実した冬休み・新年へ向けて

3年生…進路の実現に向けて最後の長期休業、私立高校入試が待っています。これまでの努力を十分発揮し、高校生の自分を想像して新年の抱負を立て、新生活を夢見よう!

2年生…立志式へ向け自分自身を見つめ直し、立派な立志の誓いを立ててほしい!そして、最上級生になった自分の姿を想像して新年の抱負も立ててみよう!

1年生…先輩となる準備。来年4月に迎える新入生の模範となれるよう心も身体も鍛えてほしい!そして、先輩・上級生になった自分を想像して新年の抱負を立ててみよう!

自分を見つめ、生き方を考える有意義な冬休みにしましょう。3学期始業式には笑顔で元気な皆さんに会えることを楽しみにしています。どうぞ良い年を迎えてください。

自分を見つめ、進路や生き方について考える

冬休みの読書にこの1冊…「君たちはどう生きるか」

今年は、名作「君たちはどう生きるか」(吉野源三郎著、初版1937年)の漫画版が異例の売れ行きで、今なお幅広い世代で読み継がれています。倫理や道徳といった人の生き方を問う本がこれだけ売れるとは…反響の大きさにも驚かされているそうです。

私が高校生のとき、題名に興味をもって手にした1冊の岩波文庫が、この名著「君たちはどう生きるか」との出会いでした。それから、何度この本を読んだことでしょうか。中学生の少年コペル君が、級友たちとの様々な出来事を通じて、叔父の助言を得ながら成長していく…。80年もの間、読み続けられてきた名作です。

実は…だいぶ前のことになりますが…私は、この本の書評を『教育とちぎ』から依頼されたことがありました。そこに掲載された私の書評をそのまま紹介いたします。

この本を私が初めて読んだのは、高校3年の時だった。

成績が思うように伸びず、受験勉強そのものにも疑問を抱き始めたころ、本屋で偶然に目に飛び込んできた「君たちはどう生きるか」という問いかけは、私の問題意識にとって非常に新鮮だったのだ。

物語は、中学2年の主人公コペル君が経験する様々な事件を通して成長していく過程を描いている。同時に、叔父さんとの対話によって、彼はより高い思考へと踏み込み、学問的意味づけをしながら真の友情のあり方について新しい発見をしていくのである。つまり、事実や体験を通して自分が本当に感じたことや真実心を動かされたことから出発して、その意味を考えていくことで「君たちはどう生きるか」という大きなテーマに迫っていくのである。

例えば、ニュートンはリンゴの落下から何故、万有引力が発見できたのか、という叔父さんの問いかけが契機となって、オーストラリアの粉ミルクが赤ん坊に届くまでの長いリレーについて考え、「人間分子の関係、アミの目の法則」の発見へと発展させていくのだ。それを叔父さんは、人間の深い結びつきの関係として、自然科学から社会科学までの概念をきちんと全面展開していく。

また、欠席の続く友人をコペル君が訪問したことによって、生産と消費の関係にまで思考を拡げていき、新しい問題を読者に提起することで、実に多くのことを私たちに考えさせてくれるのだ。

「真の友情とは何か」、「真の偉人・英雄とはどんな人か」、「学問とは何か」といった古くて新しい問いを、科学的に考えることは大切である。

特に、現代の青少年には考えてほしい。そして尋ね、問い続けたい。

君たちは、どう生きるかー。

中学生が読むことを前提には書いていない(教員向けの雑誌用)原稿なので、少し読みにくいかもしれません。しかも、限られた字数で書いたものなので、詳しい内容を省いて、大まかな書評になってしまっています。

この小説の主人公コペル君はあだ名で、本田純一というのが本名です。このコペル君と級友が上級生に意地悪をされる“雪の日のできごと”は、ぜひ読んでほしいところです。かつて、道徳の副読本にも掲載された内容です。

Happy Xmasの講話でも紹介したように、ジョン・レノンが願った平和は訪れていません。世界中のどこかで戦争や紛争が起こっています。貧困と格差の広がり生きづらさにつながり、いら立ちを助長させています。今日を生きる人間として、あるべき姿とは？

人間の生き方、深くじっくり物事を考えること、人間の尊さを守ること…君たちにもぜひ考えてほしい！と思い、終業式でも紹介しました。人生の読本は問い続けています。

君たちは、どう生きるかー。